

外国人集住都市会議津会議2017
基調講演

「当事者として考えるニューカマーの
子どもたちの現状と課題
—第二世代の進路と将来像の実態—」

奈良学園大学 人間教育学部 助教
オチャンテ 村井 ロサ メルセデス



基調講演会の概要

- 1. 自己紹介：デカセギの子どもとして日本で教育を受けることについて：筆者自身の体験、学校や日常生活での困難、父の教育方針など
- 2. ニューカマーの若者たちの高等学校進学の実態と高等学校中途退学につながる要因について
- 3. 外国人労働者の実態：子どもたちと保護者の労働環境
- 4. 大人と子どもを含めた日本語学習機会の保障と、人材育成による雇用の安定について
- 5. 必要な支援と課題
- 6. おわりに

1.自己紹介

名前

Rosa Mercedes Ochante Muray

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス

日系4世のペルー人

1996年12月来日

※未成年であったため、日系3世の扶養として「定住者」→「永住者」



富山県出身の
曾祖父 村井国重

明治42年(1909年)12月17日ペルーへ
移民



デカセギの子どもとして日本で 教育を受けることについて



母は1991年4月、父は1991年10月に
来日し、派遣会社に連れられ、三重県伊賀
市の自動車用部品の製造業へ



来日の目的は、ペルーで一軒家を
建て、一階でパン屋をすること

異文化との出会い、自文化を発信 する活動へ



中学校生活

1997年1月から中学校に入り、わずか2ヶ月で卒業し、

- 1997年4月定時制高校進学





高校生活

仕事

学校生活

家庭





大学

京都ノートルダム女子大学人間文化学部生涯発達心理学科卒業

大学院

三重大学大学院人文社会科学研究科地域文化論専攻修士課程修了

5年間 教育委員会 小中学校教育課 外国人児童生徒巡回相談員を得て、

現在奈良学園大学人間教育学部で助教

2. ニューカマーの若者たちの高等学校進学の実態と高等学校中途退学につながる要因について

- ①高校進学に対する意識が高い、そして肯定的である
- ②行政や地域のボランティアなどのサポートが充実している
 - →問題を共有できる相談相手という役割を果たしている
- ③身近なロールモデルの存在



進路ガイダンス



先輩からのメッセージの場面



課題

- ①学力問題
- ②入試試験の壁
- ③親の期待と自分の学力レベルの相違
- ④多様な将来の夢を描けない
- ※目標をたて、夢に向かって頑張ろうと思っても、大学の学費が払えないから大学進学を諦める青少年が少なくない。

高校進学できたにも関わらず、中途退学をする若者が少なくない。

退学につながる要因として

- ①学力の問題
- ②進学した高校への無関心
- ③高校でのいじめ
- ④経済的な問題
- ⑤高等学校の教育制度が十分に理解されていないなど。



3. 外国人労働者の実態：子どもたちと保護者の労働環境

- 外国人労働者の多くは非正規雇用で3か月から6か月の労働契約
 - 不安定な立場に置かれている。
- 人手不足を補うための使い捨て労働者
 - 残業が多い時には夜まで
 - 仕事が減ると解雇
- 定時まで働いても、低賃金
 - 生活費を稼ぐのが精一杯
- 将来、緊急時のための貯金ができず、
 - 余裕のない生活→ 生活困窮者

- 交代制勤務→シフト勤務のような4日勤務2日休日制等
- 週末出勤が多い→親子で過ごすまとまった時間はない
- 労働環境を改善しない限り、いつまでも不安定な生活
- 子ども自身の教育達成、学校生活に大きく影響



4. 大人と子どもを含めた日本語学習機会の保障と、人材育成による雇用の安定について

- 三重県における日本語指導を必要とする児童生徒は、南米と東南アジア出身者（漢字圏以外）が8割を占めている。
- 日本語と母語について「*ダブルリミテッド」の子どもたちが多く存在している現実を踏まえる必要がある。
- 外国人労働者の日本語学習機会がボランティア教室や自治体レベルでは限界がある。

- 人手不足解消のために彼らを受け入れる国や企業らが日本語学習機会を保障し、日本語学習へのモチベーションを上げる。
- 外国人労働者を受け入れる企業は「やさしい日本語」で彼らに対応できるように研修を受ける必要がある。
- 多様化が進んでいる今、やさしい日本語を共通語とし、そのスキルを習得する必要が企業側にもある。
- 今後入国する日系4世、5世が、当初のデカセギが歩んだ苦しい道を体験させないように、早急に対策を考え、実行する必要がある。

5. 必要な支援と課題

- 基礎的な日本語力を身に付けるだけでなく、各教科の学力も高めることが必要。
- 初期の日本語指導、適応教室の充実、学習支援教室運用のための補助が必要。
- 経済的な理由で進学できないケースも多いので、彼らを対象にした奨学金の増額、国立大学の入学枠の拡大の検討。



- ドロップアウトした若者が再出発ができるための支援として、教科や日本語の学習できる場の設置。
- 高校の卒業資格がないと正社員として雇ってもらえない
- 低賃金で不安定な労働契約、いつまでも貧困生活に置かれていく可能性が高い。
- 高卒資格に再挑戦する若者の支援が不可欠。



- 外国人の労働環境を改善し、日本語を学習する機会を確保し、使い捨て労働者ではなく、豊かな人材として養成することの重要性。
- 日本語能力の不足がネックになって、自分が希望する魅力ある仕事にはつけない。
- 日系4世、5世には、日本語習得問題だけで解決されない問題が多い。日本社会へ適応するための講座、日本で生活するための基礎的な知識など、入国後の早めの対応が必要不可欠。



6. 終わりに

- ニューカマーの子どもたちも将来日本の社会を担っていく一員であるという理解と認識が必要。
- 就学保障、入学後のサポートを学校、保護者、行政や地域のボランティアが連携して行う重要性。
- 豊かな人間性を持って社会に貢献できる大人に育成していきたいと切に願っている。



- 日系2世、3世の受入れにあたって学んだこと、同じ過ちを繰り返さないように、受け入れ国として対策を考える重要性。
- 外国人と日本人が共生できる社会の実現。
- 在留外国人が日本、県や市町を地元として考え、将来のため「共に築き上げていく」という共通意思や理解に繋がるための絆、関係性を作っていけることを願う。



ご清聴
ありがとうございました。



【参考文献】

細川 卓哉 2011 年 外国人生徒の高校進学に関する教育課題—特別入学枠に着目して— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻『教育論叢』第 54 号 pp.3-12

宮島喬 外国人の子どもの教育: 就学の現状と教育を受ける権利 東京大学出版会 2014

・オチャンテ カルロス 「三重県における日系南米人のドロップアウト問題」『平和研究セミナー 論文集』 pp.95-124 2010

オチャンテ ロサ 「ニューカマーの子どもたちが抱えている諸問題」「日系ブラジル人・ペルー人の現在」 三重大学人文学部多文化共存研究センター 2009年9月30日

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス 「不況後の日系南米の子どもたちの現状 親を取り巻く環境から学校生活まで」梶田叡一 『教育フォーラム51 いま求められる言語活動 読む力・書く力を重視して』 金子書房、2013年2月 pp.145-155

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス 「ニューカマーの子どもたちの義務教育後の進路選択と将来の展望」梶田叡一 『教育フォーラム54 各教科等の学習を支える言語活動 言葉の力をどう用いるか』 金子書房、2014年8月 pp.118-126

・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス 「公立の小・中学校の不登校-不適応における生徒指導の課題 —外国人児童生徒の困難な体験からの考察—」奈良学園大学紀要第5集pp.27-35, 平成28年9月

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス 「高等学校中途退学の現状と生徒指導の課題—外国人児童生徒における体験からの考察—」人間教育学研究第4号平成29年3月

田巻 松雄 2013 栃木県における外国人生徒の進路状況—3 回目の調査結果報告— 宇都宮大学国際学部研究論集 第36号, pp.17-26

渡辺 マルセロ、オチャンテ 村井 ロサ メルセデス、オチャンテ 村井 カルロス、小島 祥美 2014 外国人高校生を応援する仕組みづくりへの挑戦— NPO 法人Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとうの実践報告—ボランティア学研究 Vol.14 pp.45-56